

# 地産地 SHOW

埼玉大学 斎藤ゼミ

## 現状と問題

京田辺市は、奈良市、京都市、大阪市といった都市近郊に位置しており、その利便性の高さから年々着々と人口を増やしている。一方で、京田辺市には歴史的文化や、食文化など、後世に残していかなければならない多くの文化が存在している。

しかし、都市近郊に立地しているという地理的利点が引き起こす人口流入によって、京田辺を知らない大人が増えているという問題も起こっている。このことは、彼らの子供が京田辺市の文化を大人から学び、知る機会を減らすことにつながっている。

京田辺市が独自の文化を後世に伝えながら、地域としての特色を持ってより良く発展していくには、市民の郷土愛を向上させることが必要となってくる。そのために、私たちは食育を通じて、郷土愛を持った人材を育てるための政策を考えた。食育を推進しながら、その中でも特に徳育に重点を置いた政策を提案する。

## われわれの提言

「地産地 SHOW」とは？

地産…子供たちが自ら行動を生み出すこと。

地 SHOW…まずは子供が地域を見る→将来、大人になった子供たちが、将来の子供に魅せる。

### 1、家庭料理コンクールの開催

クラス内で親と相談した家庭料理の発表会を行い、その中からクラスの代表を決める。そして、その代表は市のコンクールに出展され、市の審査基準を満たした場合その料理を給食のメニューとして出す。

- 得られる効果・・・徳育、知育

### 2、双方向のトレーサビリティ

トレーサビリティとは、農作物の作成者の情報を消費者に伝えることを目的としている。今回の場合は、農家から生徒と、生徒から農家の二方向で情報開示をするシステムである。まず、農家から生徒というのは、学校給食に使用した地元食材について、提供元の地元農家の方の顔を、献立を通すことで生徒が知ることができるようにする仕組みだ。農業を身

近に感じることで、食に対するありがたみを感じることができるようになるのである。

次に生徒から農家の流れは、給食の献立に提供した食材がどう生かされたのかを農家に知らせる、ということである。これにより、農家の人の喜びややりがいにつながる事が期待できる。

●得られる効果・・・徳育

### 3、農業体験 with 農家

収穫を主とした農業体験を通して、生徒は食べ物を作る楽しさ・苦勞を学ぶことができる。また、自ら作った農作物が給食に使用されることによって、食べ物大切さを学ぶことができる。

●得られる効果・・・徳育、知育、体育

#### 政策の効果とまとめ

これらの政策を行うことによって、子どもたちは京田辺の食を学べるだけでなく、知育・徳育・体育を育むことができる。そして子供たちを通して、これらの知識が親たちにも伝わることで、少しずつ京田辺に触れる機会を得ることができる。

また、子どもたちが大きくなったとき、今度は親・農家などの立場に立ち、子どもたちに同じように伝えていくことができる。こうして、子どもたちがその地で得た知識を、その地で子供たちに教えていくことによって、消費していく、まさに“知識の地産地消”が行われていく。この結果、京田辺市での食育を通じた知識の伝承が、多くの市民に京田辺を知ってもらいきっかけになると考える。